

# 年次報告書

## Annual Report 2022

---



# 目次

---

1	IGPCのミッション	3
2	理事長からのご挨拶	4
3	2022年度の活動内容	5
4	活動詳細	6
5	決算報告書	13
6	団体概要	18
7	謝辞	19



# 1. ミッション

---

世界のすべてのお母さんと赤ちゃんに周産期医療を。

お産や赤ちゃんとの対面は、すべての人にとって幸せな瞬間です。周産期医療は、すべての人が平等に享受できるものです。一方で、医療資源の乏しい発展途上国では、お産は常に死と隣り合わせです。わたしたちは、途上国のように医療資源が制限されている地域でも、周産期医療が可能であることを、活動を通して証明していきたいと考えます。適切な医療が世界のすべてのお母さんと赤ちゃんに届き、女性と子ども、そして家族の健康の向上を目指します。

Our mission is to deliver Perinatal Medicine to all pregnant women and newborn babies in this world. In developing countries, more than 800 women die daily due to complications caused by delivery. Most of them could have been saved if given birth in Japan. More than 2.5 million newly born babies die every year before reaching their 1st birthday. 90% of these babies die within 1st month after they are born in this world (neonatal period).

Perinatal medicine is a field of medicine to save and protect these small lives, but it is seldom enjoyed by the people living in the resource-limited countries. We believe we can make the world where every mother and baby lives happy and productive life through innovative and cost-effective perinatal medicine.



## 2. 理事長からのご挨拶

---

「力無きままに」

本年度は、いよいよシエラレオネのスンプヤにて、IGPC /STL周産期母子医療センターが稼働し始めました。昨年6月にスタートして、今では月に30件ほどのお産を取り扱い、その三分の一は母体搬送症例です。また、緊急帝王切開などの手術件数もすでに50件を超えるまでになりました。

皆様のご支援によりここまでやってこれることができました。

改めて御礼申し上げます。

まったく何もなかったスンプヤの地に、新しい病院を建設し、そこではいま新しい命が日々生まれています。母体死亡ゼロ、新生児死亡の削減を掲げて、日本人とシエラレオネのスタッフが力を合わせて、目標を達成しようと日夜努力しています。

しかし、それでも助けられない命と遭遇することが少なくありません。

特に1歳にみえない赤ちゃんの重症熱帯熱マラリア、死産や新生児死亡など赤ちゃんを助けることは本当に難しい。周産期センターとは言っても、日本のような新生児集中治療室や高度な機器のそろった手術室があるわけではありません。ここでできることは、日本でできることの半分以下です。

周産期センターが稼働して今思うことは、愛するものを失った家族が、泣き叫び、悶え苦しむ様を前にして、なにもしてあげることができない自分の無力さであります。

人は、このような時、祈ることしかできないのだと改めて思いしらされました。しかし同時にまた、人は力なきままに、周りにささえられ、弱き存在の自分もまた周りを支えている。お互いがつながりの中で生きていることを自覚するのであります。

支援してくださる日本のみなさまのご縁に支えられて、弱き存在であるIGPCの活動が成り立っているのです。

現地で活動するスタッフの無事を祈り、悲しみに打ちひしがれる家族の安寧を祈り、そして支援してくださる方々の想いを胸に抱きながら、日々の診療にあたっていくことが、我々にできるたった一つのことなのです。

今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

小平雄一

理事長 小平 雄一  
母と子の医療を世界に届ける会



# 3. 2022年度の活動内容

今年度は、シエラレオネでの周産期医療プロジェクトに重点をおき、本格的にクリニックにおける周産期事業を開始しました。また、クリニック事業と並行してアウトリーチ活動も定着させたほか、日本医療研究開発機構（AMED）に採択された研究活動を展開しています。シエラレオネ以外では、従来から携わっているコンゴ民主共和国での活動も行い、日本国内においても講義依頼や勉強会、SNSを通してIGPCの活動や途上国における母子保健の現状を広く伝えています。

## アウトリーチ 活動継続

クリニックと並行して対象とする村々に定期的に訪問し妊婦健診や健康教育を継続して実施

## IGPC活動説明会

東京において第1回報告会/派遣説明会を実施。オンライン参加を含め50名ほどが参加

## DRC派遣

コンゴ民主共和国におけるハイリスク妊産婦に対する効果的な介入への新機能開発に向けた実態調査に専門家を派遣

## IGPC勉強会

12回の勉強会を実現。国際保健の専門家を始め、ビジネス分野のエキスパートまで幅広い講師軍による講演を実施

## 受け入れ準備

クリニックでの分娩受入れに向けた環境整備や記録物、資機材の準備、スタッフ教育も開始

## 分娩受入開始

6月に経膈分娩を扱い、翌7月から緊急帝王切開を含むハイリスク分娩の受け入れを開始

## 講演活動ほか

看護大学や助産学校、看護協会等で途上国母子保健やIGPC活動について講義実施

日本新生児生育医学会・学術集会へ参加、ブース展示

## AMED研究

日本医療研究機構 研究事業をシエラレオネ南部州ボー病院で開始

APR

JUL

SEP

NOV

DEC

## 4. 活動詳細

---

- ◆ シエラレオネ周産期医療プロジェクト（シエラレオネ）  
Sierra Leone Perinatal Medical Project
  - 周産期クリニック事業
  - コミュニティアウトリーチ活動
- ◆ 日本医療研究開発機構（AMED）事業
- ◆ パートナーシップ事業 コンゴ共和国
- ◆ IGPC コミュニティ勉強会
- ◆ IGPC 講義・講演活動



# シエラレオネ 周産期医療プロジェクト

## Support of the Sierra Tropical Medical Center

シエラレオネのボー地区、スンブヤに拠点を置く外資系企業Sierra Tropical Ltd.,(STL)とともに従業員の健康管理と合わせて周産期医療を提供するためのクリニックを2021年に開設、2022年5月より分娩受け入れを開始しました。

帝王切開も含めた緊急時の対応もできるよう施設の整備だけでなく、現地スタッフへの教育も行い、ハイリスク妊産婦の管理と近隣地区からの搬送も受け入れています。分娩対象者は、STLの従業員とその家族、アウトリーチ活動において発見されたハイリスク妊産婦、及び近隣地区からの搬送されてきた妊産婦です。

外来業務、妊婦健診に加え、お産の受け入れに対応するため現地スタッフの雇用数も拡大し、現在は25名の現地スタッフとIGPCスタッフで協同し、24時間体制でクリニックを運営しています。現地スタッフとともにIGPCスタッフもシフト交代のもと常駐することを原則とし、現地スタッフと協働するだけでなく、日常的に指導を継続的に行える環境を整えることで、個々のメンバーの知識、技術の向上がみられています。

分娩件数は2023年3月までに計130件に達し、月単位での数は徐々に増えています。合計分娩数のうち、帝王切開は17%(n=22)でした。クリニックでの妊産婦死亡数は0件であり、母体適応での帝王切開の実施を原則としていることから、妊産婦死亡率の改善に貢献していることが推察できます。また、新生児死亡数は3件(臍帯巻絡による新生児仮死1件、骨盤位による新生児仮死1件、原因不明の新生児仮死1件)でした。

今後はその原因詮索とともに改善策を検討することを課題として考えています。

**対象地域の人口は3万人  
内1300人が妊産婦です**





# シエラレオネ 周産期医療プロジェクト

## Outreach Activity

クリニックでの妊婦健診業務だけでなく、近隣地区への訪問型の妊婦健診を週2回の頻度で行っています。毎回の訪問で1~2村、約10~20人/村の妊婦を対象にしています。活動拠点であるルグブチーフダム内47村落を約4ヶ月かけて全て訪問しています。

訪問時は、現地スタッフが村の母親達に教育的関わりを、IGPCスタッフが主にエコーを実施するなど協働して妊婦健診を提供しています。また、訪問日の告知や当日の会場設営にあたり、村長やPublic Health Unit (PHU)のスタッフ、Community Health Worker (CHW)等にも協力していただきながら実施しています。

アウトリーチ活動の目的は、近隣地区におけるハイリスク妊婦の発見とその後の継続ケアに繋げることで母子の命の安全を確保することです。継続的な活動により、ハイリスク妊産婦の発見、その後クリニックでの健診及び分娩管理へと移行できるシステムが構築されています。また、地域の関連施設との関係づくりにもつながり、PHUが対応していたローリスク分娩が異常に転じた際にクリニックにスムーズに搬送できるような連携システムの構築にも貢献しています。

2023年3月末までの130件の分娩総数のうち、52% (n=68)がアウトリーチで発見されたハイリスク妊婦でした。今後は妊婦健診受診数や母子の出産アウトカムの統計データを具体的に明らかにすることでアウトリーチの成果を評価することを課題としています。

**ハイリスク妊婦を抽出し、適切な妊婦管理と分娩に受けて準備をします**





# 日本医療研究開発機構 (AMED)事業

Japan Agency for Medical  
Research and Development  
(AMED)



**研究事業の開始：医療資源の限られた環境で有用かつ低価格で導入可能な、簡易保育器、携帯型High-flow nasal cannula、胃管を含む早産児救命パッケージの開発**

2023年1月よりシエラレオネ、Bo地区のBo Government Hospitalにて研究活動を開始しました。本研究は、アトムメディカル社と共同開発した簡易保育器、携帯型の呼吸器及び胃管による哺乳補助の新生児予後の改善への効果の検証を目的としています。対象は主に早産児を想定した低出生体重児としています。シエラレオネにおける新生児死亡率は31/1,000 live births(World Bank, 2021)であり、世界平均が18/1,000 live births(UNICEF, 2021)、日本が1/1,000 live births(World Bank, 2021)であることを踏まえると、非常に高い水準にあることが分かります。新生児死亡の改善には早産児へのケアが必要不可欠であり、その中で体温管理、呼吸管理、哺乳補助に重点を置くことで予後改善を期待しています。前段階として測定機器の使用方法や研究の流れについての教育を現地のスタッフに行いました。現在は機器使用の前の観察研究段階で、介入前のデータの収集を行っています。研究対象となる児の酸素飽和度と体温の持続的モニタリングに合わせて予後のデータを収集し、介入後のデータと比較することで、機器の効果を検証する予定です。介入前のデータ収集は2023年12月頃までを予定し、その後介入機器の使用方法についての教育を行った後、介入後のデータ収集に移行していく予定をしています。



**IGPCミッションのひとつである研究活動が  
副理事長を中心に進められています**

# パートナーシップ事業 コンゴ民主共和国

## ハイリスク妊婦に対する 効果的な介入への新機能開発 に向けた実態調査



IGPCのミッションには、「最新のテクノロジーと、安価でシンプルな機材を組み合わせた新しいアプローチを考案し、必要であれば臨床研究等により検証を行い、実際の途上国臨床現場に応用可能な周産期管理方法を提案する。」とあります。

その一つとして、株式会社SOIKと共に妊婦健診の健診記録管理とエコー検査がスマホ一台で完結するシステムを作ろうとしています。IGPCは実証前の機器の取り扱いに必要な研修と医学的アドバイスでのサポートをしています。

今回はシエラレオネで活動をしていた産科医 伊藤医師がコンゴ共和国に向かい、対象地域における包括的な周産期管理を目的とした新機能開発がハイリスク妊婦に効果的に導入できるのか実態調査を行いました。

調査では、対象地区における周産期医療施設を分類化し、一次医療施設から高次医療機関までの医療体制の概念図の作成し、階層の明確化を行いました。また、各医療機関での患者の受け入れ体制及び、高次医療機関への搬送基準に統一性がなく、新機能の介入基準にアルゴリズムとして組み込みました。更に、non-medical workerであるcommunity health worker (RC) の役割を明らかにした他、周産期医療体制の現状及び課題を明らかにし、特に搬送症例の不十分な情報共有が不適切な母体搬送につながり、治療介入の遷延につながることを明らかにし、この改善策をSPAQの新機能として組み込みました。

従来役割が公にされなかったRCがコミュニティ内の妊産婦死亡に大きく寄与することが判明し、新しいSPAQの介入ターゲットとして、より現場の運営に沿ったupdateを提示することができました。医師の立場から臨床現場の視察、及び現地医療スタッフとのディスカッションも踏まえながら、より実運営に沿ったupdateに貢献したと考えます。

※ 株式会社SOIKは、アフリカの小規模医療施設で働く一般医、助産師、看護師を支援するデジタル産科ソリューション SPAQの改良・普及活動を通じて、2026年までに1万の医療施設において保健サービスの質向上、妊産婦健診数の増加、妊産婦および新生児死亡率の低減に貢献する企業です





# IGPC コミュニティ勉強会

2022年9月よりコミュニティ運営をPeatixに移し無料化しました。  
昨年に引き続き月に1回、途上国の母子保健、保健医療に関する話題の提供としました。今年度は特に派遣報告と業務紹介、キャリア形成に関する話題を充実させ、途上国経験や医療資格がなくとも派遣や国際協力に興味のある人が参加しやすいようにしました。  
コミュニティメンバーは42名から82名へと増加しました。



今年度実施した講義内容は以下になります。

01

## 4月17日 IGPC交流会 / 講師：IGPC助産師

シエラレオネ活動に参加した助産師や参加中の助産師をオンラインで繋ぎ、活動紹介や生活の様子、国際支援について伝えました。また、参加者とグループに別れ意見交換などを行いました。

02

## 5月15日 症例検討会「Covid-19合併マラリア」 / 講師：IGPC理事長

シエラレオネで対応したコロナ感染とマラリア合併症例について、実際に診断と治療にあたった症例を基に小平医師が症例を紹介した。合併症例の研究や文献、情報が少ない中で、通常みられる症状とは異なる点などが発表されました。

03

## 6月26日 マラリアでしないために / 講師：中村正聡 先生

国際マラリア対策団理事長/元JICAマラリア専門家であり、還暦を過ぎた今でも「現場第一主義」を貫く根っからのマラリア専門家から、マラリア流行地での身の処し方について豊富な経験を基にお話し頂きました。

04

## 7月17日 分娩介助者が果たしている役割 / 講師：藤井千江美 先生

シエラレオネの農村部における分娩介助者に関する研究について、シエラレオネでの活動も長く、現在では高知大学医学部看護学科基礎看護学講座の助教/HANDS理事シエラレオネプロジェクトを担当されている先生に発表頂きました。

05

## 8月20日 ボリビアの母子保健事情 / 講師：中里祥子 先生

保健師・看護師であり、JICAの母子保健専門家として活動する先生から、ボリビアにおける母子保健の状況や今までの活動などを分かりやすく解説頂きました。

06

## 9月19日 新生児蘇生法を世界の果てに届ける / 講師：嶋岡鋼 先生

国際医療福祉大学塩谷病院 小児科/認定NPO法人あおぞら アドバイザリースタッフの先生がアジアやアフリカでの新生児蘇生法の普及活動の様子や先生が描く支援の在り方などが説明され、熱い想いが伝わる勉強会でした。

07

## 10月15日 IGPC派遣報告会 / 講師：伊藤敬佑 医師

2か月シエラレオネで活動をしたIGPC産婦人科医より、対象地域における健康問題や周産期の問題、その解決策など経験に基づいた報告が行われました。

08

## 11月26日 国際協力キャリアセミナー / 講師：松田尚泰 先生

ITコンサルティング事業と国際協力事業を通じて、人々や社会のさらなる飛躍に貢献する事をビジョンとする株式会社 Great Leap Consulting代表取締役である先生から、ご自身の経験や国際協力の関わり方をビジネスの視点からお話し頂きました。

09

## 12月11日 IGPC派遣報告会 / 講師：濱野聖菜 医師

3か月に渡り理事長の右腕となってシエラレオネ活動に従事した若手産婦人科医。地域の活動や緊急対応、激務の中でも前向きに患者に当たる姿は現地のスタッフや患者からの多くの信頼を得ました。先生の活動の紹介や支援の在り方など、考えさせられる内容でした。

10

## 1月29日 IGPC看護部事業紹介 / 講師：IGPC助産師 中川由美子

延べ5名の日本人助産師がIGPCシエラレオネ活動に従事し、ローカルスタッフと共に築き上げている周産期活動を詳しく、丁寧に解説しました。国際協力に興味のある方から実際に派遣を検討している方々の参加がありました。

11

## 2月19日 産科フィスチュラ / 講師：小笠原絢子 先生

助産師であり、LaLaEARTH 産科フィスチュラ研究・啓発団体 代表である先生に、産科フィスチュラ患者の証言から考える助産というタイトルで日本では馴染みのないフィスチュラの心身の問題や社会的問題、どのように介入しているのかなど詳しく解説頂きました。

12

## 3月26日 ビジネスを通じた社会貢献を / 講師：吉永公宣 先生

アーケイグローバルビジネス株式会社 副社長/アーケイアーケイ株式会社 海外営業支援チーム 責任者から世界の医療現場に新たな診断技術、検査を提供するビジネスを通して得られた経験や発券などが発表された。



# IGPC 講義・講演活動

IGPCには途上国支援の経験をもつ医療従事者が複数参加しています。

私たちの経験や知識が次世代の国際協力や国際医療支援に関わりたいと希望する方々に生きた声を届けたく、依頼を頂いた医科大学や看護大学などで講義を行いました。

引き続き周産期医療をベースに途上国の母子保健事情やIGPCの経験を伝えていけるよう広く活動していきたいと思います。

## 看護大学における講演・講義

昨今のグローバル化の影響もあり、昨今では多くの看護大学や専門学校で国際看護や国際母子保健を学ぶ機会が増えてきました。

2022年度は以下の看護大学や大学院、助産学校等で講演や講義を行いました。

現在ではオンラインで参加できる媒体が充実してきたため、どこからでも講義ができるようになりました。

- ◇ 2022年8月 大和大学 保健医療学部 看護学科対象
- ◇ 2022年8月 新潟助産師協会 協会関係者
- ◇ 2022年10～11月（3回の講義） 日本赤十字看護大学 大学院 国際保健助産コース対象  
助産師による講義では、実際にシエラレオネのコミュニティヘルスセンターで働く助産師とZOOMで繋ぎ、センターの様子や分娩後の母子、シエラレオネの助産師に直接質問をするなど、活発な講義を展開しました。
- ◇ 2023年11月 豊田赤十字看護大学 看護学部 看護学科対象
- ◇ 2023年1月 聖バルナバ助産師学院 助産師学生対象

## 医科大学での講演

IGPCシエラレオネ活動に研究者として訪問された富山大学附属病院周産期母子医療センターの教授より、医大生にシエラレオネの周産期医療の現状を伝えて欲しいと依頼があり、IGPC理事長が富山大学に伺いました。医学生20名ほどが集う中、活発な意見交換ができました。学生の多くが途上国での医療に興味を示していたことに理事長も驚きの様子でした。

日本とは異なる環境下である事は理解できても、あまりにも周産期死亡が高い状況を目の当たりにした学生に、様々な思いが残った事と思われまます。

## その他 講演活動など

IGPCでは、講演や講義のほか、途上国支援に興味をもつ医療従事者や大学関係者の現地訪問を受け入れ、シエラレオネの現状を見てもらうなど、IGPCならではの活動を依頼に応じて可能な限り実践しています。

また、今年度は日本周産期・新生児医学学会やイベントを活用した広報活動を幅広く行い、活動に参加して下さる方、賛同くださる方を増やしています。

# 5. 決算報告書

# Financial Report

---

貸借対照表

活動計算書

計算書類の注記

財産目録



# 令和4年度 貸借対照表

特定非営利活動法人 母と子の医療を世界に届ける会

(単位：円)

科目	金額	小計・合計
<b>【A】資産の部</b>		
1 流動資産		
現金預金	6,294,596	
未収金	2,618,797	
前払費用	50,000	
流動資産合計・・・①		8,963,393
2 固定資産		
(1) 有形固定資産		0
(2) 無形固定資産		0
(3) 投資その他の資産		0
固定資産合計・・・②		0
<b>【A】資産合計 ①+②</b>		8,963,393
<b>【B-1】負債の部</b>		
1 流動負債		
前受金	1,000,000	
流動負債合計・・・③		1,000,000
2 固定負債		
固定負債合計・・・④		0
<b>負債合計 ③+④</b>		1,000,000
<b>【B-2】正味財産の部</b>		
前期繰越正味財産額		7,337,112
当期正味財産増減額		626,281
<b>正味財産合計</b>		7,963,393
<b>【B】負債及び正味財産合計【B-1】+【B-2】</b>		8,963,393



# 令和4年度 活動計算書（その他事業がない場合）

特定非営利活動法人 母と子の医療を世界に届ける会

(単位：円)

科目	金額	小計・合計
<b>【A】 経常収益</b>		
1 受取会費		108,000
受取会費	108,000	
2 受取寄附金		315,500
受取寄附金	315,500	
3 受取助成金等		0
4 事業収益		12,113,227
シエラレオネ民間企業連携事業	8,149,764	
研究機関連携事業	2,370,000	
その他特定非営利活動事業	1,593,463	
5 その他の収益		0
<b>経常収益計</b>		<b>12,536,727</b>
<b>【B】 経常費用</b>		
1 事業費		
(1) 人件費		8,540,469
給料手当	7,871,897	
日当・謝金等	668,572	
(2) その他経費		539,323
会議費	0	
旅費交通費	71,427	
施設賃借料	0	
備品・消耗品費	3,712	
印刷製本費	0	
支払手数料	455,703	
その他費用	8,481	
<b>事業費計</b>		<b>9,079,792</b>
2 管理費		
(1) 人件費		997,703
給料手当	976,203	
日当・謝金等	21,500	
(2) その他経費		1,843,687
会議費	225,168	
旅費交通費	450,528	
施設賃借料	679,200	
備品・消耗品費	74,730	
印刷製本費	13,886	
支払手数料	164,964	
その他費用	235,211	
<b>管理費計</b>		<b>2,841,390</b>
<b>経常費用計</b>		<b>11,921,182</b>
<b>当期経常増減額【A】-【B】…①</b>		<b>615,545</b>
<b>【C】 経常外収益</b>		
受取利息	268	
為替損益等	10,468	
<b>経常外収益計</b>		<b>10,736</b>
<b>【D】 経常外費用</b>		
<b>経常外費用計</b>		<b>0</b>
<b>当期経常外増減額【C】-【D】…②</b>		<b>10,736</b>
<b>税引前当期正味財産増減額①+②…③</b>		<b>626,281</b>
法人税、住民税及び事業税…④		0
前期繰越正味財産額…⑤		7,337,112
<b>次期繰越正味財産額③-④+⑤</b>		<b>7,963,393</b>

令和4年度 計算書類の注記

特定非営利活動法人 母と子の医療を世界に届ける会

1. 重要な会計方針  
計算書類の作成は、NPO法人会計基準によっています。

- (1) 棚卸資産の評価基準及び評価方法  
棚卸資産を所有していません。
- (2) 固定資産の減価償却の方法  
固定資産を保有していません。
- (3) 引当金の計上基準  
該当する取引がありません。
- (4) 施設の提供等の物的サービスを受けた場合の会計処理  
収益計上をしていません。
- (5) 消費税等の会計処理  
税込方式によっています。

2. 事業別損益の状況

(単位：円)

科目	シエラレオネ民間企業連携事業	研究機関連携事業	その他特定非営利活動事業	事業部門計	管理部門	合計
<b>I 経常収益</b>						
1. 受取会費	0	0	0	0	108,000	108,000
2. 受取寄附金	0	0	0	0	315,500	315,500
3. 受取助成金等	0	0	0	0	0	0
4. 事業収益	8,149,764	2,370,000	1,593,463	12,113,227	0	12,113,227
5. その他収益	0	0	0	0	0	0
経常収益計	8,149,764	2,370,000	1,593,463	12,113,227	423,500	12,536,727
<b>II 経常費用</b>						
(1) 人件費						
給料手当	6,100,000	888,992	882,905	7,871,897	976,203	8,848,100
日当・謝金等	0	668,572	0	668,572	21,500	690,072
人件費計	6,100,000	1,557,564	882,905	8,540,469	997,703	9,538,172
(2) その他経費						
会議費	0	0	0	0	225,168	225,168
旅費交通費	71,427	0	0	71,427	450,528	521,955
施設賃借料	0	0	0	0	679,200	679,200
備品・消耗品費	0	3,712	0	3,712	74,730	78,442
印刷製本費	0	0	0	0	13,886	13,886
支払手数料	452,403	2,640	660	455,703	164,964	620,667
その他費用	0	8,481	0	8,481	235,211	243,692
その他経費計	523,830	14,833	660	539,323	1,843,687	2,383,010
経常費用計	6,623,830	1,572,397	883,565	9,079,792	2,841,390	11,921,182
当期経常増減額	1,525,934	797,603	709,898	3,033,435	-2,417,890	615,545

3. 施設の提供等の物的サービスの受入の内訳  
シエラレオネ民間企業連携事業において、シエラトロピカル株式会社より、派遣職員の住居・食事、及び車両の提供を受けています。これら物的サービスの受入については、収益として計測・計上していません。
4. 使途等が制約された寄附金等の内訳  
使途等が制約された寄附金等はありません。
5. 固定資産の増減内訳  
固定資産を保有していません。
6. 借入金増減内訳

(単位：円)

科目	期首残高	当期借入	当期返済	期末残高
短期借入金	2,000,000	0	2,000,000	0
合計	2,000,000	0	2,000,000	0

※期首残高は全額小平理事長からの借り入れです。2022年5月に全額返済しました。

7. 役員及びその近親者との取引の内容  
役員及びその近親者との取引は以下の通りです。

(単位：円)

科目	計算書類に計上された金額	内、役員との取引	内、近親者及び支配法人との取引
(活動計算書) 施設賃借料	600,000		600,000
活動計算書計 (貸借対照表)	600,000		600,000
貸借対照表計	0	0	0

※本部事務所を小平理事長の関連企業から賃借しています。賃料は50,000円/月であり、周辺賃料相場からみて相当と判断しています。

8. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状況並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必要な事項
- ・ 事業費と管理費の按分方法  
東京事務所経費の全部を管理費として計上しております。
  - ・ その他の事業に係る資産の状況  
その他の事業(収益事業)はありません。

# 令和4年度 財産目録

特定非営利活動法人 母と子の医療を世界に届ける会

(単位：円)

科目	金額	小計	合計
<b>【A】 資産の部</b>			
<b>1 流動資産</b>			
現金預金			
手元現金	392,953		
三菱UFJ銀行普通預金	5,795,823		
三菱UFJ銀行外貨預金(USD 792.48 @133.53)	105,820		
		6,294,596	
未収金			
未収入金(STL立替費用)	2,618,797		
前払費用(本部事務所賃料2023年4月分)	50,000		
		2,668,797	
棚卸資産			
			0
<b>流動資産合計・・・①</b>			<b>8,963,393</b>
<b>2 固定資産</b>			
<b>(1) 有形固定資産</b>			
車両運搬具			0
什器備品			0
<b>(2) 無形固定資産</b>			
ソフトウェア			0
借地権			0
<b>(3) 投資その他の資産</b>			
敷金			0
長期貸付金			0
<b>固定資産合計・・・②</b>			<b>0</b>
<b>【A】 資産合計 ①+②</b>			<b>8,963,393</b>
<b>【B-1】 負債の部</b>			
<b>1 流動負債</b>			
短期借入金			0
前受金(テルモ生命科学振興財団)	1,000,000		
		1,000,000	
<b>流動負債合計・・・③</b>			<b>1,000,000</b>
<b>2 固定負債</b>			
長期借入金			0
退職給付引当金			0
<b>固定負債合計・・・④</b>			<b>0</b>
<b>【B-1】 負債合計 ③+④</b>			<b>1,000,000</b>
<b>【B-2】 正味財産合計 【A】 - 【B-1】</b>			<b>7,963,393</b>



# 6. 団体概要

## Overview of IGPC

名称

特定非営利活動法人母と子の医療を世界に届ける会  
英語名 Initiative for Global Perinatal Care  
略称 IGPC

住所

東京都練馬区豊玉上一丁目20番3-501号

電話・FAX

03-3991-0966

URL

<http://igpc.jp>

理事長

小平 雄一 産婦人科専門医

理事メンバー

平川 英司 鹿児島市立病院 新生児内科医長  
小堀 周作 西船橋こうのとりにくクリニック 院長  
山本 嘉昭 聖隷三方原病院 婦人科

監事

川村 雅敏 公認会計士

設立年月日

令和元年7月8日

所轄庁

東京都

事業内容

- ①途上国における産科超音波を始めとした周産期医療全般の普及事業
- ②途上国における早産児や呼吸障害児等の蘇生法及び管理方法普及事業
- ③途上国における母子保健の状況を広く発信する事業
- ④その他目的を達成するために必要な事業

# 7. 謝辞

---

活動を全面的に支援してくださるSierra Tropical Ltd.,の皆様に心からの謝意を表します。

また、本事業報告書ならびに令和4年度会計報告の作成にあたり、終始適切な助言と丁寧な指導をして下さった岩淵寛太郎氏、川村雅敏氏に深く感謝します。

最後になりましたが、過酷な環境にも弱音を吐かず、現地で活動してくださる日本人スタッフの方々に心より感謝申し上げます。





特定非営利活動法人

母と子の医療を世界に届ける会

Initiative for Global Perinatal Care